

■ 弱視児童におけるタブレット端末を活用した授業事例

1. 児童の実態

- 。小学部
- 。弱視

2. 目的

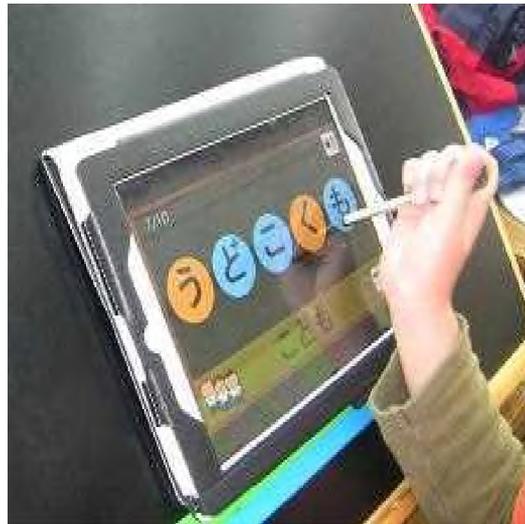
- 。国語科の授業において、タブレット端末を活用することにより、課題に対する意欲づけを高めるとともに、効率的な学習法を検討する。
- 。弱視児における、タブレット端末のよりよい操作法を探る。

3. 利用機器

- o iPad2
- 。スタンド型カバー
- 。専用タッチペン
- 。斜面台

4. 使用アプリ

- 。ホワイトボード
- 。黒板
- 。ひらがな



5. 経緯・施行経過

ひらがなから、単語をつくる学習において、ひらがなカードを組み合わせて、単語を作成していた。しかし、授業時間帯によっては、集中できなかつたり、見えにくさから、一文字を選ぶことに、時間がかかり、児童の意欲づけと効率的な学習法が課題となっていた。

そこで、タブレット端末(GPad2)を活用し、フリーアプリケーションの中から、「黒板」「ホワイトボード」「ひらがな」をダウンロードして、授業に試行的に活用することとした。タブレット端末の設置法としては、児童にとって画面が確認しやすい位置と操作の観点から、斜面台の上に置き、見やすい角度と高さを棒磁石で固定することにして進めた。

当該児童は、タブレット端末を導入した直後から、強い関心を持って課題を進めることができた。当初の文字学習では、「黒板」のアプリを活用していたが、コントラストがはっきりする「ホワイトボード」のアプリの方が見やすいということが分かり、「ホワイトボード」のアプリを活用した。

また、「ひらがな」のアプリでは、音声で、作る言葉を知らせた後、ひらがなを順序よく触れると正解音が鳴るほか、誤答のひらがなに触れると、不正解音が瞬時になるので、自分からひらがなの組み合わせを確認することができた。

6. まとめと課題

iPadでの課題を楽しみにするようになったので、児童の意欲が継続するように、授業の最後15分程度を活用することとして、授業展開を組むこととした。「黒板」のアプリでは、ひらがなを消す際に、2回のタップ選択が必要であるが、「ホワイトボード」のアプリでは、1回のタップで消すことができるほか、文字の太さを手軽に変更することができる点がよかった。操作しやすいようにタッチペンを使用した。持ち手を形状記憶樹脂等で児童にあった形にするとよりよいと助言を受けた。弱視児の見え方は、一人ひとり違うので、単に大きく、太くすればよいのではなく、コントラストや角度、画面の反射等もより考慮していかなければならない。